

合同シンポジウム “一緒にやろうや！「住」”

兵庫頸髄損傷者連絡会 土田浩敬

こんにちは。

今回3月に行われた、日本リハビリテーション工学協会(以下、リハ工)・全国頸髄損傷者連絡会(以下、頸損連)との合同企画、障害者の住まいについての合同シンポジウム “一緒にやろうや！「住」” の感想を書かせていただきます。

第1回実行委員会

12月、リハ工の方達と頸損連のメンバーで実行委員が発足し、顔合せをかねた実行委員会が開かれました。

内容はどうか、頸損連メンバーはやはり当事者ということで、実際に住んでいる環境についての話になりました。興味深いネタもあるということで議論を重ねた結果、事例発表と専門家からの見解、その後パネルディスカッションという内容に。実行委員会もスムーズに進み、どんどん物事が決まっていきます。スケジュールとそれぞれの役割も決まり、次回の実行委員会の開催日時を決まりました。その後、懇親会をかねた食事へみんなで行きます。親睦を深めて次回の実行委員会に、良い雰囲気のまま望めそうな初回の実行委員会になりました。

第2回実行委員会

2回目の実行委員会は本番と同じ場所、川村義肢本社で行い、駅から会場までの順路確認やシャトルバスの運行状況、その他細かな所話を詰めていきます。実行委員会も今回が最後なので、しっかり確認してみんなで情報共有します。後にもかくにもこれで最後、みんな真剣です。このシンポジウムで障害者の住まいについての問題点や要望を、多くの方に知って頂こうという思いが、当日伝わる事を願い、実行委員会が終わりました。次回はよいよ本番になります。

本番当日

本番当日、晴れ。会場まで少し距離があるので、晴れて移動がしやすいです。参加される車椅子当

事者の方達も、晴れて会場までの道のりも安心して来られるでしょう。集合場所に実行委員が集まり確認、会場設営、それぞれ昼食後、担当場所に着きます。

私は受付担当です。ボランティアの学生さんとも軽く打ち合わせを終え談笑していると12:30頃、シンポジウムに参加される方々が、予想よりも早く来られたので、少し焦りましたが、個人的には何食わぬ顔をして冷静に対応出来たと... うん順調な滑り出しだ...と思っていると、次から次へと参加される方々が来られます。先ほどの冷静な対応をした私にその面影はありません。学生さんも大忙し、まるで工場の流れ作業のように黙々と対応。ですが笑顔を忘れません。

来られる方々に気持ちよく参加して頂きたいですから。受付表を確認すると大勢参加されていることが伺えます。今のところいい感じです。受付表と参加費を照らし合わせて途中集計していると、あれっ...金額が合わない。何度も確認するのですが合わない。うーん、どうしようか...誰かから多く徴収しているのか...と内心焦っていると、そういえばおつり分も一緒に計算していないかと気が付き、再度分けて計算するとぴったり。なんとも初歩的なことでみんなが焦っていたのですが、気が付いて一安心。

そんなこんなで受付の仕事が終わってみれば15:00過ぎ。すでにみんなの事例報告が終わり、発表が聴けず仕舞いに終わり少し残念でしたが、盛況だったようでありました。

個人的に受付で始まり受付で終わった印象の今回のシンポジウムでしたが、参加された多くの方々が、私達が感じる問題点を知り、また考える場になったのではないかと思います。

そして、このシンポジウムを機に、皆さんと考え、私たち当事者の抱えている問題を提起していくことが、私達の、そして誰もが住みやすい環境に少しずつ変わっていくのではないかと思います。